

## 大丈夫なこと

大阪教区 義本弘導 仏教壮年会連盟講師

数年前より、本願寺の企画である「お西さんを知ろう！」に関わらせていただいております、本願寺のお茶所にある総合案内に時々座っています。

少し前のことですが、初老の男性が来られて、「安産のお守りはありますか。」

とお尋ねになるのです。観光で訪れる方には、そのようなお尋ねをされる方もいらっしゃるのですが、「浄土真宗では、お守りを持つことは教えの上から必要ありませんので、置いていません」

とお答えすると、

「そんなことはわかっている」

と語気を荒げておっしゃいます。事情をうかがうと、息子さんがやっと結婚してくれて、子どもを授かり、妊娠4ヶ月になるということなのです。私がお祝いの言葉を言うと、それを遮るように、「めでたいのだが、高齢出産になるから気が気でない」、「とにかく無事に健康な子が生まれてくれることを願っているのだが、落ち着かない」、何かこれがあると大丈夫といえるものがほしいと思い、ご縁のご住職にお守りはないですかと尋ねたそうです。そうするとご住職は、浄土真宗にはお守りは必要ないということを詳しく話してくださったそうです。でも、納得できず「もしかし

たら本願寺にはあるのかもしれないと思い来たんだ」と話されます。うかがいますと北陸の方です。浄土真宗のみ教えが昔からしっかりと伝わっているところですよ。だから「そんなことはわかっている」と言われたのでしょね。そこまで話を聞いて、私は、「そういうことがわかっておられるのでしたら、本願寺に来られても、ないことがわかるではありませんか」と話したのです。そうすると、私につかみかかるような勢いで、「この心配があんたにわかるか、ただ赤ちゃんが無事に元気に生まれてきて欲しいだけなんだ」とおっしゃり、目の前にあるボールペンを指さし、「これを持っていれば大丈夫とあんたが言うてくれるのなら、これを買って帰る」とおっしゃるから、「そんなことは間違っても言えません」と言い、相談室に入ってもらってじっくりと話すことにしました。私は、「いくら阿弥陀さまが救ってくださるとはいえ、大丈夫なのは阿弥陀さまであって、私のほうに何か大丈夫と思えるものが出来上がったたり、阿弥陀さまが届けてくださったりすることはありませんよ」と話しました。

それにしても、私たちは弱いものですね。順境の時には、「お念仏ありがたい、阿弥陀さまにお任せ」と言いながら、一旦逆境に陥ったら、そう言っていたことはどこ吹く風と、安心できるものを探し回るのです。でも、願うことは仕方のないことです。

そこで、私はその方に、「阿弥陀さまは、私たちに、願ってはいけないとはおっしゃっていません。ですから、阿弥陀さまの前で思いっきり願いをかけたらいいと思います。今から阿弥陀堂に行かれて、阿弥陀さまの前でどうぞ思う存分願ってみてください。ただ、それで、すっと立ってはいけませんよ。しばらく阿弥陀さまと話すつもりで、阿弥陀さまのお顔を見ていてください。そして、周りを見回してください。世の中には同じような願いを持っている方がきっとおられるでしょう。その方の赤ちゃんは無事に生まれてこなくてもいいのですか。そういうことを思うと、私の願いがいかにか自分勝手な願いなのかということにいくらか気づいてもらえらると思います。そんな身勝手な私を阿弥陀さまは、咎めることもなく、何があっても離さない、必ず救うからこの仏に任せてくれと、私を喚び通しに喚んでくださっています。

それが私の口から出てくださる『南無阿弥陀仏』です。どうぞ、お念仏申して、阿弥陀さまの願いを聞いてください」と、私がお話ししますと、黙って阿弥陀堂のほうに歩いて行かれました。わかってもらえたかどうか私にはわかりませんが、きっと阿弥陀さまの前でお念仏申され、阿弥陀さまの願いに気づいてくださったと思います。

南無阿弥陀仏

